

海外視察ツアー 第4弾(2024) 「台湾(台北・高雄)4日間」報告

柿崎 賢一(4期電気)

打田 卓朗(54期電気)

中井 祐太(55期電気)

三重大学工学部同窓会企画「最新 IT 事情視察ツアー第4弾(2024)」が9月17日から4日間で行われました。このツアーは2018年の中国深センツアーから始まり、コロナ禍を跨いで復活し、今回で4回目となります。参加者は在校生2名を含む、3期生3名、4期生5名、5期生1名、8期生1名の合計12名です。全員電気の出身でした。わいわいがやがや楽しい海外研修でした。初めての海外旅行の在校生は大先輩と十分に交流が図れた貴重な経験となったことと思います。

今回の訪問先は台湾の台北市、新竹市、高雄市です。台北市では「テックス・イヤー・インダストリーズ 桃園工場」、新竹市では「TSMC 台積創新館」、高雄市では「台湾糖業博物館」を視察しました。

初日は空港に到着後、九份観光に向かいました。九份は台湾北部に位置する山間の町で、「千と千尋の神隠し」の舞台となったことでも知られています。石畳の階段と赤い街頭が特徴的な商店街を散策した後は、レストランでノスタルジックな夜景と共に台湾コース料理を楽しみました。



2日目の前半は、台北市「テックス・イヤー・インダストリーズ 桃園工場」を視察しました。テックス・イヤー・インダストリーズは環境に優しい接着剤の製造を中心とする企業で、主力製品であるホットメルト接着剤や瞬間接着剤などをグローバルに展開しています。DIY や梱包だけでなく、飲料品のストローの接着やラベルの貼り付けなど、日本においても非常に身近な用途の製品です。

今回の視察ではその実物を手に取って見ることができました。特に、日本ではまだ展開されていない「缶飲料の接着梱包」については、紙資源の消費削減の観点で非常に期待が高まります。



後半は「TSMC 台積創新館」を視察しました。TSMC は「台湾のシリコンバレー」とも呼ばれる新竹市に本社を構える世界最大手の半導体メーカーで、今回訪問した台積創新館は、TSMC の歴史やその最新技術を体験することができる施設です。

視察では、TSMC の他社と競合しないビジネスモデルによる成長の流れや、マイクロ IC を中心とした半導体技術の進化について学びました。中でも印象に残っている展示は、創設者モリス・チャン氏から送られた言葉です。「困難や挑戦の先に素晴らしい未来が待っている」というこの言葉からは、設立から 40 年足らずで急激な発展を遂げた TSMC ならではの信念が伝わりました。



また、視察の最後には最新の VR 技術を体験することもできました。座席の動きも含めた大迫力のアトラクションです。台湾に向かう機会があればぜひその目でご覧ください。

3 日目は高雄市の「台湾糖業博物館」を視察しました。製糖産業の歴史を学べるほか、迫力ある製糖工場の跡地を見学することができました。



そのほか、「英國大使館」の見学なども行いました。英國大使館はかつての英國領事館の建物を利用した資料館で、現在では台湾とイギリスの歴史的な繋がりや文化交流について展示する施設として一般公開されています。台湾観光の最中に英国文化に触れるのはとても不思議な感覚で、日本で言えば長崎県でオランダ文化に触れるのに近い雰囲気を感じました。



最終日は故宮博物院を見学しました。当時から存在しているとは思えないほど美しい古代中国の芸術作品が展示され、歴史的背景を学びながら鑑賞することができました。

台湾と言えば食事也非常に食べ応えがあり、中でも小籠包は本場ならではのジューシーさで、台湾観光において外せない存在だと実感しました。ビールも日本のものとはまた違った風味で、しかしとても飲みやすく日本人の口によく合う味わいでした。



今回のツアーも、海外の最新 IT 事情をこの目で見るだけでなく、国境を越えるとともに学科や世代を超えた交流を実現できる有意義なひとときとなりました。来年以降もまた別の地で開催とのことで、益々期待が高まります。



